

夏の梅若能



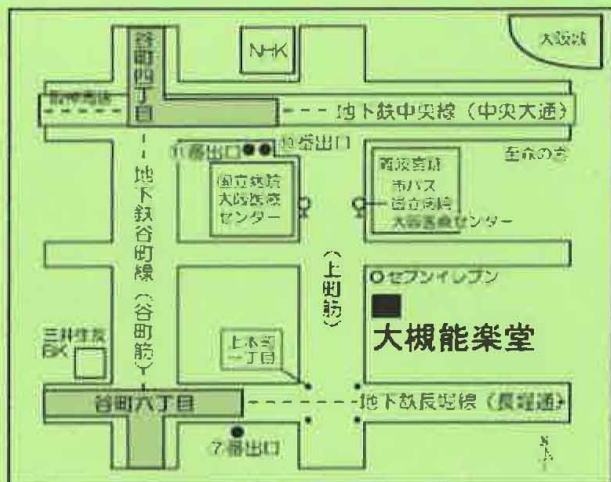
平成29年6月4日(土)
11時半 開 場
12時半 開 演

主催 大阪梅若会

於 大槻能楽堂
大阪府中央区上町A-7
電話(06) 6761-8055

平成29年 大阪梅若会
12月2日(土)
於 大槻能楽堂
老 松紅梅殿 赤瀬雅則
野 守黒頭 梅若玄祥

京都秋の梅若能
平成29年9月30日(土)
於 京都観世会館
竹生島 女体 梅若玄祥
角当直隆
井上貴美子
阿 漕 井上和幸



駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

- 地下鉄「谷町四丁目」下車
⑩番出口を出て南へ約300m
(⑩番出口にエレベーター有り)
- 地下鉄「谷町六丁目」下車
⑦番出口を出て約350m
(⑦番出口にエレベーター有り)
- 市バス「国立病院」下車南へすぐ
※大阪駅から62系統
「住吉車庫前」行 乗車
- ※あべの橋(天王寺)から62系統
「大阪駅前」行 乗車

仙師(せんし) 信心深い田舎のある男が、お堂を建立し、中に安置する仏像を作ってもらおうと京の都へ出かけます。大きな声で仙師を尋ね歩いてみると、詐欺師が声をかけ、近付きます。自分が仙師だと偽り、仏像の注文を受け、翌日、自ら、仏像になりすまして待ちます。

善竹忠一郎

演目について
杜若 素囃子(かきつばた しらばやし)
京都の名所旧跡を巡り終えた諸国遊歴の僧(ワキ)が、東国行脚に出て三河の八橋に来た。この沢辺で今を盛りの杜若に見とれて、若い女から声をかけられた。女は、ここを八橋と呼ぶのは川の流が多岐にわたるので八つの橋が渡されているからだと言え、昔、在原業平が「かきつばた」の五文字を句の第一音に据えて詠んだ有名な歌のことを告げる。それは、「唐ころも着つつ馴れにした」妻しあればはるばる来ぬる 旅をしぞ思ふ」というものである。その上女は、見苦しいところだがと、いいつつ僧を誘って自分の庵に案内した。(物着)
やがて女は冠唐衣を着て男装して僧の前に現れた。僧が怪しんで尋ねると、この唐衣は高子の後の御衣、冠は業平が五節の舞に使用したもので、いずれも業平の歌に詠まれたものだという。なお怪しんで「御身はいかなる人ぞ」と問うと、実は自分は杜若の精だという。
在原業平はもとも歌舞の菩薩が衆生を導くために、仮にこの世にお出でになつたものだ。だからその和歌は、そのままみな法身説法の妙文であり、その和歌に詠まれれば、非情の草木(の自分ら)までも仏果を得て成仏することができなのだ。そういつて伊勢物語の故事を語り舞った。女はやがて成仏し得た身を喜びつつ消えてゆく。
小袖曾我(こそでそが)
工藤左衛門尉祐経は父祐継から相続すべき所領を伊東祐親に横領されたのを恨んで祐親を狙ったが、その子河津三郎を殺害した。時に三郎の長男十郎祐成(一萬)は五歳、二男時致(箱王)は三歳である。母の再縁した曾我祐信に養われたが、箱王は箱根別当に預けられて法師になるはずのところ、父の敵を討とうと母に隠れて密かに元服した。以来勘当をうけている。
時は経て今建久四年五月中旬、源頼朝が富士の裾野に巻狩を催すのを機会に敵を討とうとする曾我兄弟は、別離のため曾我の里に母を訪れた。まず兄(シテ)が挨拶に出ると、母(ツレ)は戯れ言を交えてその情は濃やかである。弟(ツレ)は垣間みて羨望に堪えない。しかも依然として勘当は解けず対面さえできない。むなく館を出ようとする弟を引きとめて、兄は弟ともども母の前に出て泣く真心を訴え、こゝとに狩場へ出れば不慮のこともあるだろうに、何故お心にかけれぬかと怨み顔で泣く分かれようとした。堪えかねた母は、今は不興をも勘当をもゆるし、兄弟は共に舞って(相舞の男舞)母を慰めた。こうしてまことに久しぶりに会した三人は名残の酒宴を開き、兄弟は共に舞って(相舞の男舞)母を慰めた。こうしてそれはそれとない訣別であり、富士野へ出て行った二人は見事に敵を討つたのであった。

平成二十九年六月四日(日) 十二時半始

於大阪市中区上町A-17号
大槻能楽堂
TEL 06-6761-1805(五代)

梅若能番組

本日の演能解説

仕舞

山中近晶

敦

盛クセ

綿田富美枝

地謡

小田切亮磨
山本博通
梅若紀彰
梅若堯之

能楽

杜

若

素雛子

福王知登

守家由訓 上田慎也
清水皓祐 野口亮

梅若能長左衛門

後見

山中近晶
松浦信一郎
地謡

小田切亮磨 井上和幸
山下麻乃 山崎正道
川口晃平 赤瀬雅則
井戸良祐 梅若基徳

—(休憩十分)—

狂言

仏師

善竹隆司

善竹忠一郎

後見 上吉川 徹

仕舞

八島 赤瀬雅則
班女 梅若善高
大江山 松浦信一郎
地謡

井戸良祐
梅若猶義
梅若能長左衛門
山崎正道

—(休憩十五分)—

能楽

山中近晶
井上和幸
小田切亮磨
梅若紀彰
山本博通

小袖曾我

山本哲也 齊藤 敦
成田達志

間 善竹隆平

後見

梅若能長左衛門
梅若善高
地謡

前田和子 梅若堯之
井上貴美子 梅若猶義
綿田富美枝 梅若玄祥
川口晃平 梅若基徳

附祝言

(終了予定時刻 午後四時十五分頃)

◎お願い
演能が終わりました。そのまゝお静かに余韻をお楽しみください。
そして、舞台の全員が退場致しました。出来ませれば拍手をお願い致します。

主催 大阪梅若会

梅若能入場券 当日 7,500円 学生券 3,500円 入場券取扱
前売 7,000円 赤瀬雅則 TEL06-6340-1524 山本博通 TEL06-6849-1258
梅若能長左衛門 TEL03-3722-1682 大槻能楽堂 TEL06-6761-8055 他 各出演者宅
座席指定 有料(¥500/席)にて承ります。大槻能楽堂(TEL06-6761-8055)へお申し込み下さい。(期間6月3日まで) 入場券は別途必要となります。
大阪梅若会 〒566-0055 摂津市新在家2-26-8-302 赤瀬雅則方